

中央大学理工学部電気電子情報通信工学科同窓会

# 同窓会々誌



撮影 大越 功氏 (撮影場所:十里木)

2005—10 第42号

平成17年度総会・懇親会は11月5日(土)

## 2005年10月 第42号 目次

|                            |       |    |
|----------------------------|-------|----|
| ごあいさつ                      | 天野 浩志 | 3  |
| 電気電子情報通信工学科の近況報告           | 山村 清隆 | 4  |
| 退職に当たりて                    | 徳丸 洋三 | 6  |
| 第2回修士論文発表会同窓会賞             |       | 7  |
| 修士論文発表会同窓会賞を受賞して           | 永塚 真吾 | 8  |
| 就任のご挨拶                     | 二本 正昭 | 10 |
| 電気OBの皆さん、知っていますか？“電気電波の神様” | 田口 昭夫 | 11 |
| 榊原 剛先生を偲んで                 | 遠藤 正雄 | 12 |
| 社会人になって                    | 白木 茜  | 14 |
| ワシントン・アコード加盟について           | 篠田 庄司 | 15 |
| ガバナ屋38年                    | 林 直司  | 17 |
| 「友有り・・・」40エレキが集う           | 嶋原 眞澄 | 18 |
| 会誌発行事業費の集計報告 その4           |       | 20 |
| トドの詰まり文化論 その9              | 菱沼 一夫 | 21 |
| 《国家間の歴史問題をどう捕らえるか？》        |       |    |
| 中大電気同窓会 役員・常任幹事            |       | 24 |
| 篠田教授 電子情報通信学会「業績賞」受賞       |       | 24 |
| 同窓会新規入会者のご紹介               |       | 25 |
| 計報                         |       | 25 |
| 同窓生からのお便り                  |       | 26 |
| 講演会要旨 《世界最速エレベータを支える技術》    | 水口 宏昭 | 31 |
| 同窓会からのお願い                  |       | 31 |
| 編集後記                       |       | 31 |
| 平成17年度同窓会総会・懇親会開催のお知らせ     |       | 32 |



## ごあいさつ

会長 天野 浩志

会員の皆様お元気にご活躍のことと拝察申し上げます。同窓会は昨年創立50周年を迎え本年から新しい半世紀に入ります。

平成11年には財政危機が顕在化し、同窓会の存続が危ぶまれましたが、平成13年から募金を開始しました「会誌発行事業費」に対しまして皆様から多くのご芳志を頂き、危機を脱することができました。これは、現在も年に数人ですがご芳志を寄せて下さる方があり、同窓生の同窓会に対する熱き思いを感じており、感謝に堪えません。詳細は、別掲の集計報告をご参照下さい。

立て直された財政を基盤とした同窓会事業では、昨年度に初めての試みとして大学院博士課程前期修了予定者による「修士論文発表会」の優秀論文に「同窓会賞」を設けて表彰をしました。

本年度も昨年同様に10名の幹事が審査員となり厳正な審査を行った結果、6人の方々に賞状ならびに副賞(図書カード1万円)を贈呈しました。詳細は、別掲の修士論文発表会に関する記事をお読み下さい。

この企画は、今後も続けていき大学院の研究の活性化に繋げていくために微力ながら貢献したいと考えております。また、大学院で研究に取り組んでいる院生諸君の励みに少しでも役立てられればと幹事一同は願っております。

現在、同窓会が直面しております最大の課題は、

新卒者の入会者が全卒業生の半数に満たない少数であるということです。他学科の同窓会でも同じ悩みを抱えており、理工学部8学科同窓会連絡会でも度々議題となりますが解決の決め手がなく試行錯誤を繰り返しております。

我が同窓会も、今までに様々な試みを行ってまいりましたが、入会率の向上は達成されておられません。幹事会では、卒業生が是非とも入会したくなるような同窓会にするため、これからの同窓会活動を見直し、学部生が参加する同窓会行事・終身会費の問題・年会費化の問題・総会と懇親会のあり方・会誌発行方法等々、検討を加えなければならぬ課題が山積しております。

本年度の総会は、昭和42年卒業の皆様が「開催委員会(委員長:秋田隆史さん)」を設置し、運営を担当することになり、様々な企画を考えていると聞いておりますので楽しみにして下さい。

同窓会幹事会は、昨年の総会において任期満了に伴い新たなメンバーが選任されました。引き続き私が1期2年間会長の任を担うことになりました。他の役員・幹事の皆様については、別掲の役員・幹事のご紹介をご覧ください。

これからも、同窓会に対してご理解ご協力をお願い申し上げます。

(昭和39年卒)

---

同窓会ホームページ URL : <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/EEOB/qindex.htm>



## 電気電子情報通信工学科の近況報告

電気電子情報通信工学科教授 山村 清隆

同窓会からは、本学科に対し日頃多大なるご協力とご援助を頂き、誠に有難うございます。最近学会等の諸事業と重なり、私も同窓会の総会へ参加できなくて、大変申し訳なく思っております。特に同窓会長の天野様には、ご多忙のところ毎回学科の入学式・卒業式でご挨拶を頂き、厚く御礼申し上げます。

また一昨年度より、修士論文発表審査会で優れた研究発表を行った大学院博士課程前期の学生に対して同窓会賞を授与して頂いておりますが、発表審査会には年度末のお忙しい時期にもかかわらず、選考審査のために多数の同窓会執行部の方々にご参加頂き、心より御礼申し上げます。お蔭様で発表会もより引き締まったものとなり、聴講している在校生にもよい刺激となっております。また昨年度から大学院修了式と学部卒業式を合同で開催することになりましたが、その席上で同窓会賞の授賞式を行って頂いたお蔭で、学部生、特にこれから大学院に進学する学生にとって大きな励みと目標になったと思います。

今年度は私が電気電子情報通信工学科の学科主任を担当しております。同窓会から最近の学科の近況を書いてほしいと依頼されましたので、貴重な会誌の一部をお借りして私から報告させていただきます。私も中央大学の本学科に着任してから7年を過ぎました。昨年4月に3名の新任の先生が着

任されるまでは私が一番の新参者だったのですが、いつのまにか主任という大役を仰せつかる年齢となり、年月の早さを実感しております。学科の方も、いろいろな意味で変化しています。紙面の都合上、そのすべてをここでお伝えすることはできませんが、詳しくはインターネットで学科のホームページ (<http://www.elect.chuo-u.ac.jp/>) を見て頂くのが一番かと思えます。同窓会のページもリンクしてありますので、遠方の方も是非アクセスしてみてください。

まず、18年という長きにわたり教鞭をとられ、本学科のために尽力された徳丸洋三先生がこの3月をもちまして定年退職を迎えられました。徳丸先生の最終講義の様子が学科のホームページに掲載されていますので、是非ご覧ください。また卒業式の夜に行われた送別会でも、徳丸先生の謙虚で暖かいお人柄が反映された和やかな雰囲気のもと、昔話等で大いに盛り上がりました。徳丸先生、長い間本当にお疲れ様でした。

また昨年4月からアメリカのミネソタとドイツのミュンヘンに在外研究に行かれていた稲葉先生が9月に帰国され、その後もますます活発なご研究をされています。在外研究中のいろいろな貴重なご体験は、研究だけでなく講義等にも反映されていくことと思えます。

この4月は新任教員の着任はありませんでしたが、昨年9月以降の教育技術員の移動は数名ありました。

まず、佐藤信夫さん、長谷川寛さん、安田聖治さんの3名が退職されました。実験室の運営等では大変なご尽力を頂き、誠に有難うございました。また佐藤義基さん（95年中大電気卒）が新たに加わりました。任期制の事務職ということもあり、このような優秀な方を教育技術員に採用するのが年々難しくなりつつあるのが現状です。これまでも同窓会からのご推薦により、囑託扱いで壮年の方々にもご活躍頂いておりましたが、同窓会の皆様には、是非今後とも優秀な人材のご推薦をお願いしたいと思います。

またご存じの方も多いと思いますが、平成14年度から始まった文部科学省の21世紀COEプログラム、いわゆる「大学のトップ30」が大学のランク付け問題と関連してマスコミ等をにぎわしています。中央大学では初年度から情報電気電子の分野で、辻井重男先生をプロジェクトリーダーとする「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」の研究拠点プログラムが選定され、日本のトップレベルの研究大学として認定されています。このプログラムには本学科からも篠田先生、白井先生と山村の3名が参加しております。昨年度はこのプログラムに対する中間評価が行われ、上位から2番目の良好な評価を受けました。またこの

プログラムのほかにも、本学科では様々な優れた研究が行われ、この1年間だけでも、多くの教員や学生が学会、財団等から権威ある賞を受賞しています。詳しくは学科ホームページをご覧ください。

なお本学科では来年4月に、新たに専任教員1名をお迎えする予定です。したがって来年4月からは、本学科の専任教員の数は再び14名となります。現在、世界的に活躍されている優秀な先生をお迎えすべく、人事の作業を進めているところです。

この数年、本学科では多くの教員の移動がありました。同窓会の皆様にとっても、卒業から年月を経て自分の教えて頂いた恩師の先生が退官され、その研究室がなくなると、母校の近くに来てもなんとなく訪問しにくくなってしまいかもしれません。しかし在学中に教えて頂いた先生もまだ何人かいらっしゃると思いますし、私たちも皆様の社会でのご活躍を知りたいと常々感じておりますので、近くにいらしたときは是非母校をお尋ねください。教職員一同、皆様のご訪問を心から歓迎したいと思います。

最後になりましたが、電気同窓会の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



## 退職に当たりて

徳丸 洋三

私が中大に奉職したのは18年前の1987年です。今日までの当学科の出来事を記憶を頼りに記してみようと思います。奉職当時は社会的にはバブルに陰りが見えはじめた頃です。いくらか経済が落ちなおした現在に比べても比較にならないような景気の良さでした。そのせいか当時の学生達は元気があり、活動的であったような気がします。授業中に質問が必ずありました。銀行や証券会社等に就職する者もいました。最近の教室は静かで(携帯のせい?)、また出欠を取らなくても出席率は良くなったと思います。然し、成績が良くなったようには思われません。

在職中に学科名が電気工学科から電気・電子工学科、電気電子情報通信工学科へと改称されました。電気・電子工学科への改称はエレクトロニクス時代の到来を反映して当時は新鮮な感じを与えました。その後、情報工学科の新設があり私達の学科でも教科内容を考慮した上で、現在の学科名への変更が行われました。

二部(夜間部)の廃止が行われました。昼間働き夜学ぶ者の為に設置されていたものですが、設置の趣旨に合わなくなりました。更に、多数の大学が新設された上、少子化のためもあって志願者数が著しく減少しました。大学教育を受けるに足る学力、意欲をもつ者の数が定員を満たすだけ集まらなくなったことが大きな要因です。定員を満たそうとすれば、合格最低点をかなり低くしなければなりません。二部の廃止により、時間割作成に大分余裕が出たようです。

大学院も専攻名が学科と同じように改称されま

した。奉職した当時は院生数(博士課程前期)が各学年20名前後だったと記憶しています。全員の顔写真がコピーされて配られました。現在は定員数が確か40名で40~50名の者が各学年に在籍していると思われます。ただし、博士課程(博士課程後期)に進学する者は、残念ながらその中の極々一部に過ぎません。

就職活動も大きく変化しました。まず企業側が求人活動を始める時期に制限がなくなりました。以前は制限があったのですが、ほとんど守られていない状態でした。現在、学生達は3年次の後期試験終了後あたりから、活動を始めているようです。大部分の学生は企業とのコンタクトにネットを通じてやり取りしています。しかし、就職担当の教員の所には、従来どおり各企業の求人担当の方が来訪されます。以前はこれとは別に、研究室のOBで卒業後、数年たった者達が求人活動に訪れたものです。最近はこれら若手OBの訪問は少なくなりました。

近年、IT関係の新しい企業が急速に増えつつあります。どちらかと云えばハードよりソフト向きの女性が多い中であって、彼女らにとっては好ましい傾向だと思います。私は半導体材料を扱って来ましたので、物作り(ハード)の方に進む者が多数いることを願っています。これからはIT産業のみならず、環境問題等に関して新しい企業が育ってくるのではと考えます。お世話になった教職員の方々、OBの皆様にご感謝いたします。

## 第2回修士論文発表会同窓会賞

平成17年3月22日（火）に開催された「2004年度修士論文発表会」において発表された59件の修士論文について、同窓会審査員（10名）が厳正なる審査を行った結果、下記の6編の論文を「同窓会賞」受賞の優秀論文に選定いたしました。

平成17年3月24日（木）に開催された学部卒業式ならびに専攻科修了式の席上において、学部卒業生・専攻科修了生・ご父母の皆様列席のもと賞状および副賞（図書カード1万円）を贈呈いたしました。

### 同窓会賞受賞者

今井 右 さん（山村研究室）

テーマ：ホモトピー法を用いた非線形回路の大域的求解法

木村 亮太 さん（篠田研究室）

テーマ：上りリンク直交周波数分割多元接続システムにおける送信タイミング制御による多元接続干渉抑圧に関する研究

永塚 真吾 さん（國井研究室）

テーマ：野外ロボットのための仮想実験システム及びソフトウェアアーキテクチャに関する研究

平林 思問 さん（稲葉研究室）

テーマ：難聴者のための警報音識別装置の開発及び警報音から見る聴覚特性

柳平 康輔 さん（築山研究室）

テーマ：シリコンナノクリスタルメモリにおけるゲートとチャネルの構造エンジニアリング

若林 弘隆 さん（白井研究室）

テーマ：SBR法を用いた三次元空間における電磁波伝搬解析とその可視化について





## 修士論文発表会同窓会賞を受賞して

平成 17 年 3 月博士前期課程修了 永塚真吾

この度は同窓会賞を頂き、大変光栄に思います。私の研究テーマは、ロボット開発に伴う開発者の労力、作業時間、コストをどのようにしたら低減できるかという問題を題材にしたものです。私がこのテーマに興味を持ったきっかけは、学部 4 年生のときに研究室で参加したソーラーボート大会での開発体験です。

この大会のレギュレーションは、湖の上に設定された二十数キロのコースをボートの自律機能で走行するものでした。しかし、私たちの研究室にはボートを浮かべるプールさえもなく、走行テストを行う環境がありませんでした。そこで、私はスクリュウ出力と舵角から予想させる模擬的な計測データを生成する仕組みを用意しました。ここで計測データとはボートに搭載する GPS とジャイロセンサの出力値で位置と姿勢の情報です。

研究室での実験は、この模擬データを用いてシステムの動作確認を行いました。水上での実験が満足に出来なかったにも関わらず、大会ではボートがコース通りに上手く走ってくれました。今となっては、当然のことのようですが、当時の私にとっては、模擬データで実験するという発想にとてもインパクトを受けました。そこで、研究でもロボットの開発をサポートするようなツールを開発したいと思いました。この研究テーマは研究室で私自身が立ち上げたものです。

近年、太陽系の起源の解明や資源探査等のために、様々な惑星の探査活動が行われています。そのような探査の中で、ローバと呼ばれる移動ロボットを用いた無人探査が注目されていま

す。2003 年に NASA/JPL が打ち上げた 2 機の火星探査ローバ Spirit と Opportunity は、数 km にわたる火星表面の広域探査を行い、かつて火星に大量の水が存在していたことを実証しました。火星のような極限環境で作業を行うことができるロボットは、海洋調査や地雷除去、災害救助などにも利用され、今後さらなる活躍が期待されています。

しかし、このようなロボットの開発には、技術者の多大な労力、時間、コストを必要とします。それはロボットへの要求を満たすために、認識、運動制御、行動計画、人とのコミュニケーションなど様々な機能を搭載する必要があるからです。こうした開発を効率良く行う方法として、(1) システムを構築するための基盤となるソフトウェアアーキテクチャを用意すること、(2) 計算機シミュレーションを利用すること、が考えられます。(1) はロボットが多機能になるとソフトウェアは拡大化、複雑化し、移植や再利用、拡張が難しくなるからです。ソフトウェアの再利用や拡張が容易にできるよう、技術者自身が扱いやすいシステムの枠組みの中でソフトウェアを開発することが大切です。(2) の理由は、ロボットが活動する野外環境を実験環境として再現することが難しいからと、実環境に存在する多くの不確定性が実機によるシステム評価を難しくするからです。そこで、本研究では野外ロボット開発の効率化を目指し、拡張性や再利用性のあるソフトウェアを構築するためのソフトウェアアーキテクチャの検討と、計算機上でロボットシステムの評価・検討を行う仮想実験システムの構築を行い



ました。ソフトウェアアーキテクチャの検討では、図1に示すモデルを提案しました。

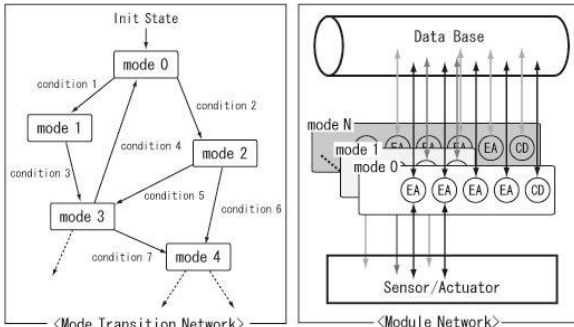


図1 提案するアーキテクチャ

このモデルはポイントが2つあります。第一のポイントは、ロボットの機能を細分化（モジュール化）し、機能の開発規模を小さくすることです。開発規模を小さくすると複数の技術者に開発を同時に振り分けることが可能で、ソフトウェアの再利用性、汎用性も向上させることができます。第二のポイントは、ロボットの行動をモードの遷移で表現することです。ここでモードとは、ロボットの動作を構成する単位機能の組み合わせを意味します。例えば、ロボットの移動を目的とした動作でも、人間が単に車輪の回転量を指示するケースと、人間は移動終着地点のみを指示し自律で移動させるケースでは、ロボットが必要とするセンサや情報処理は大きく異なります。ロボットに要求する動作を、モジュール（図1の中ではEA、CDと表記）の集合であるモード（図1の中ではmodeと表記）で定義し、ロボットの一連の行動をモードの遷移で表現することで、技術者自身が管理しやすい構成になります。

仮想実験システムの構築では、図2に示す野外ロボットについて、ダイナミクス、センサ、走行路面のモデリングを行いました。仮想実験システムは、野外ロボットを様々な不整地で走行評価することを目的としました。ダイナミク

スは、ニュートン・オイラーの運動方程式からモデル化しました。この方程式から各関節についての2階微分方程式に変形し、シミュレーションステップ時間ごとに数値積分していくことで、動的に変化するロボットの挙動を求めることができます。センサは、ダイナミクスで求められたパラメータから、計測可能な情報を抽出してモデル化しました。走行路面のモデル化では、Baraff氏の計算法を拡張させ、衝突と接触を多点接触の統一問題として扱う新しい解析的手法の提案も行いました。走行路面をモデル化する最も一般的な手法はペナルティ法です。この手法では砂地のような柔らかい路面の表現には向いていますが、岩石のような硬い路面の表現には不向きでした。硬い路面の表現方法として、Baraff氏の計算法があります。Baraff氏の計算法では、物体同士（本研究では車輪と地面に相当する）のインタラクションを相対速度の大きさです。



図2 開発中の野外ロボット

最後になりましたが、研究活動を通じて、工学的な理論や技術だけでなく、人に研究内容を伝えるプレゼンテーション力など多くのことを学ぶことができました。研究を進めるにあたり多大なるご指導、ご鞭撻を賜りました國井康晴助教をはじめ、お世話になった多くの方々に深く感謝いたします



## 就任のご挨拶

電気電子情報通信工学科 教授 二本正昭

平成16年4月から電気電子情報通信工学科で教育と研究を担当させて頂いています。学部での担当科目として電気電子材料と電子デバイスを、大学院では情報記録技術の講義をさせて頂いています。研究室テーマとして、電子材料工学の研究を掲げていますが、当面は、私がこれまで従事してきました磁気記録などの情報記録技術分野で活用される薄膜材料とその応用デバイスの基礎研究を立ち上げていきたいと考えています。情報記録技術は、情報通信技術および情報処理技術とともに今後の高度情報化社会を支える基幹技術で、今後の進展が期待されています。

私は、これまで(株)日立製作所の中央研究所で電子・イオン放射や超伝導現象を応用した材料デバイスの研究、高密度磁気記録技術の研究に従事してきました。長年の経験から、材料研究を通して材料の持つ可能性を調べ、その可能性を最大限に発揮できるデバイス構造を考案することによって、応用デバイスの性能を大幅に向上させることができると考えています。私達が材料探索研究を通して最良の熱電子放射材料と結論した六ホウ化ランタン単結晶材料は、開発から20年以上経過した今日でも高輝度の電子線源として電子顕微鏡や電子線描画装置などの電子線応用機器で幅広く活用されています。また、磁気記録技術の研究では、磁性薄膜材料の基礎研究を通して垂直磁気記録

技術の持つ可能性に早くから着目し粘り強い研究を続けてきましたが、ここ1~2年間に超高密度ハード磁気ディスク装置としてこの技術が実用化される見通しとなってきました。

研究開発では、成功に埋もれた多くの失敗がつきものですが、良い技術を開発すれば、民族、信条あるいは宗教の壁を越えて世界中で評価され、活用されることとなります。新しい技術や製品開発で重要な要因の1つに、材料やデバイスが持つ可能性と限界をどの程度踏み込んで考えることができるのか、という点があると思います。緻密な実験や考察を通して培われた信念は、技術開発の強力な推進力になります。学生諸君には、適切な判断をするための基礎的な学術知識と研究や技術開発に取り組む基本的な考え方を身につけて頂きたいと考えます。これまでの企業での経験を教育に生かして行きたいと考えております。

また昨今、技術は国境を越えて発展し、技術者の交流も益々活発化する傾向にあります。卒業生は、欧米や東南アジアなどの海外の卒業生と協業あるいは競争する機会も増大すると思われれます。しかし、中大学生に限らず日本の学生はこのような意識が概して希薄なように感じています。私自身、アジア地区での国際会議等で韓国、中国、シンガポールなどの多くのアジアの学生に接しましたが、いずれも成長途上国特有の知識修得に対する猛烈な意気込みを感

じさせられました。中大の学生諸君には、ぜひ世界の動向にも目を向けて、知識吸収力旺盛で成長力に富んだ大学時代を如何に過すべきかをぜひ考えて頂きたいと思います。専門知識だけでなく、英語などの外国語の力、世界および日本の歴史・文化に対する知識なども、海外の

人達との交流では必要でまた大いに役立つと思われる。教育や研究の場を通していろいろな問題提起をしてみたいと考えております。

同窓会の方々からの御意見・ご鞭撻、および後輩の学生諸君に対するご支援、宜しくお願い致します。

## 電気OBの皆さん、知っていますか？ “電気電波の神様”

41年卒 田口昭夫

京都の西に名高い景勝地「嵐山」がありますよね。ご存じのとおり、山麓を清々しい大堰川（おおいがわ）の水が洗う山紫水明の風景は四季とともに美しく、古くから世の人々に観賞されているところです。

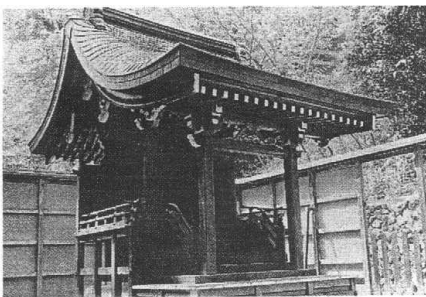
その山の中腹に、よい知恵を授け、技芸の上達をお助け下さる、全国的に有名な虚空蔵さまをお祭りした嵯峨の智福山法輪寺があります。

奈良時代に創建された法輪寺は、神仏習合として神宮寺と寺院鎮守が同一境内に祭られ、明治政府が神仏判然令を出して神仏分離をさせるまで続き、明星天子・雨宝童子・電電明神などの大空の自然に関連した神々を祭る鎮守社が存在した訳で、関西では昔から十三詣り、針供養で知られる由緒

あるお寺です。

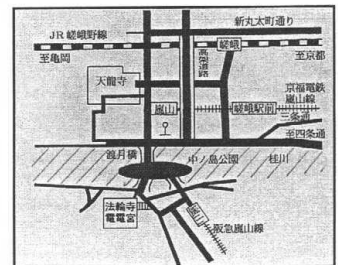
その法輪寺境内の山門をくぐって参道石段の登り口右手に、「電気」のアメリカ人エジソン氏、「電波」のドイツ人ヘルツ氏、両者の胸額を後方壁面に配した「電電塔」が1956年に建立されており、さらに石段を登りつめた所の左側に法輪寺の鎮守電電明神を奉祀した“電電宮”の社殿が、幕末（1864年）の兵火で焼失以来仮宮だったものを、1969年に大阪万博を記念して再建されています。

まだ見ていない？・・・是非とも京都方面にお出かけの時には一度、「電気人」としてお立ち寄りをお薦めします。



### 交通

- JR嵯峨野線「嵯峨駅」より南へ800m
- 京福電鉄（四条大宮～嵐山）「嵐山駅」より南へ500m
- 阪急電鉄（嵐山線）「嵐山駅」より西へ200m
- JR京都駅から京都バス・市バスで「嵐山バス停」下車、南へ200m



## 榊原 剛 先生を偲んで

4 期生 遠藤 正雄

1989 年（平成元年）7 月 6 日（火）、榊原先生と一緒に Trondheim(Oslo)で開催された国際会議に出席しての帰路のことである。（Copenhagen 11 時 35 分発 SK-575 DC-9S、Nice 行きに搭乗）13 時 55 分 Nice 到着、HOTEL MERIDIEN NICE チェックイン。このホテルはプロムナード・デザングレ大通りに面し、多分「カジノ」がある唯一のホテルである。専用のビーチがあり、一般のビーチとは区別されている。

ホテル専用ビーチにはボーイがいて、客を席に案内したり飲み物を運んだりしている。チップを弾んだせいか絶景の席（木製の寝台、飲み物などを置く台もある）に案内された。隣には、たったいま映画のスクリーンから抜け出してきたかと思われるような若い女性達がいるではないか。注視することもならず、その気配を感じながら二人で至福の時を過ごしたのである。その辺の事情に関して、村上春樹は著書「遠い太鼓」の中で（p.75）ギリシャ、エーゲ海の様子を次のように紹介している。さすがは作家である。「面白いことに、女の人がビーチで水着の上の方をはずして乳房をベロツト出している、観光客同士はじろじろと見たりはしない。ちらちらと横目で見たりもしない。そうゆうことをするのは大変に無作法であるという穏やかな共通認識が観光客のあいだには存在しているのである。写真を撮るのなんか論外である。だから隣の女の人がやおらおっぱいを出しても、男はそんなことには全然気がつかないという顔をしている。僕はこれを個人的に「エーゲ海の法則」と呼んでいる。・・・と続く」。全身日焼けした女性のピチピチした姿態は、まぶしい想いで

として脳裏に焼きついている。

さて榊原先生といえば、忘れてならないのがカジノである。7 月 7 日海水浴を楽しんだ後、午後 6 時 4 分 Nice 発の列車に飛び乗った。約 25 分でモナコ到着。早速カジノで夜中の 12 時近くまで楽しんだ。あくる日の夜は宿泊しているホテル内のカジノである（写真はカルテとルーレットチップ「50Francs」。カジノ入場の際パスポート必要）。9 日の早朝榊原先生の部屋に伺うと、分厚い 100 フラン札が二束ピンに刺して机の上に置いてあった。朝風呂を浴び、満足な先生のパジャマ姿を忘れることができない。その後二人は別々の目的地に向けて Nice を後にした。

さて、皆さんはモンテカルロという地名をご存知と思う。話は 40 年前の私の研究テーマにさかのぼる。実はシミュレーション法に「モンテカルロシミュレーション」という手法があり、その手法を用いて高電圧試験法の解析を試みた。当時、中央大学工学部に NEC のコンピュータ NIAC2101 が購入されたのは私にとっては真に幸運であった。Monte-Carlo 法というのは第二次大戦中 Ulam&Neumann 両氏がゲーム（中性子の拡散の計算）を計算機で行い、この方法に“Monte-Carlo”というコード名を与えたことから始まると本に書いてあり、地名とは無関係である。

原理は非常に簡単なので試してみるのも一考かも（興味の無い方は以下省略）。たとえば、ある電極間（ギャップ長  $g$ ）に電圧をポンポンと加えてギャップが放電するかしないかを求めることをイメージしてみる（インパルス電圧印加）。十分に低

い電圧  $V_0$  では何度電圧を加えても放電はしない。より高い電圧  $V_1$  を加えると放電する確率は  $1/6$  となり、さらに電圧を上げて  $V_2, V_3 \dots V_6$  とすると放電確率は  $2/6, 3/6, \dots 1$  のようになると仮定する（電圧と放電率の理論的な関係が仮定できることが重要であり、この関係から  $V_1, V_2, V_3 \dots V_6$  が決まることになる）。これをサイコロで模擬する場合を考える。電圧  $V_1$  でサイコロをふるときは「1 の目」がでたら放電し、2～6 の目の場合は放電しないと定める。電圧  $V_2$  でサイコロを振るときは「1 の目」と「2 の目」が出たら放電し、3～6 の目が出たら放電しないと定める。このように定めた後、電圧  $V_1$  で 10 回サイコロを振った結果、1 の目が 2 回出たとすると、放電率は 0.2 となる（理論値は  $1/6$ ）。電圧  $V_2$  で 10 回サイコロを振って、1 と 2 の目が合計 3 回出たとすると、放電率は 0.3 となる（理論値は  $2/6$ ）。このようにして、電圧と放電率の関係をシミ

ュレートすることができる。放電現象のようなバラツキのある現象を確率的に検討するには有力な手法である。サイコロを振る行為は、実際はコンピュータ内で乱数を発生させて行うことになる。

昭和 40 年（1965 年）当時私にとって海外旅行など夢のまた夢であった。しかしながら、モンテカルロというキーワードは余程深く心に刻まれていたのであろうか。北欧からコートダジュールへとつながり、モナコ行きが実現した。若いときはおおいに夢を持つことである。その夢はすぐには実現できなくとも、ひょんなことから実現する可能性は大きい。退職して 1 年余が過ぎ、継続していた雑事も目途がついてきた。多少思い出に浸る余裕ができてきたこの頃、榊原先生とご一緒した一こま一こまを思い浮かべ、先生の往年の活躍を偲びつつ原稿を書いている。ここに改めて御礼申し上げ、ご冥福をお祈りする次第である。

(2005.5 記)



## 社会人になって

(平成 15 年度 学部卒業) 白木 茜

IT(情報技術)はここ近年で急速に発展し、経済活動や社会生活に欠かせない基盤、いわば各種社会システムの「神経系」としての重要な機能を担っています。このようなITの発展は、情報経済社会のさらなる高度化を加速させる一方で、コンピュータウイルスの感染や個人情報の流出、システムダウンによる業務の停滞など、「IT事故」が頻発しているのも現状です。そのようなIT事故を減らし、情報セキュリティを確保することが重要となってきております。

私が現在所属している室はそのような情報セキュリティ政策を手がけている部署になります。現在の部署に配属されて4ヶ月が経とうとしていますが、情報分野は常に目まぐるしく、また、日々仕事の中での勉強の毎日です。私が現在の室に配属されたのは、今年の4月ですが、配属されてからも、ウイルス対策ソフトの障害や、個人情報の漏洩(実際は所管課が別にあるのですが…)などといったニュースが日々起こっています。そんな私が手がけている仕事の中に、「情報セキュリティガバナンスの確立をめざす」という政策があります。

これは、企業一社のIT事故トラブルが社会全体に波及する可能性があるという意識のもと、企業が自身の被害の局限化や法令遵守への対応に留まらず、IT社会を構成する一員としての立場からも情報セキュリティ対策に取り組む責務があるという考えに基づいています。情報セキュリティガバナンスとは、社会的責任にも配慮したコーポレー

ト・ガバナンスと、それを支えるメカニズムである内部統制の仕組みを、情報セキュリティの観点から企業内に構築・運用することであり、この情報セキュリティガバナンスが、企業に求められているのであります。しかし、企業が情報セキュリティ対策に取り組むためには、具体的にどのようなリスクに対してどこまでセキュリティ対策を行えばよいか、また、どの程度セキュリティ投資を行えばよいか、といったことや、情報セキュリティ対策を行っているとしても、対策によるリスク低減の効果が分かりにくいこともあって、積極的に情報セキュリティ対策に取り組む企業がステークホルダーから相応に評価されていない、などといった問題点が指摘されています。

企業における情報セキュリティガバナンスのあり方は、企業の形態によって一様ではありませんが、この情報セキュリティガバナンスの考え方が、社会全体に浸透することによって、私たちは情報セキュリティガバナンス確立を目指しているのであります。

とは言いましても、私自身電気電子情報通信工学科にいましたが、情報分野に関する知識は殆どない状態でした。また、前職はエネルギー分野という、近いようで、若干距離のある分野に携わっておりました。ですが、組織全体を見渡しても、通商政策や貿易政策、製造産業政策、産業技術政策、中小企業政策、原子力安全・保安政策など、とても多岐に渡っている職場なのです。それだけに、学生時代に専攻としていた分野以外の政策にも携

わることができますし、様々な人と関わりをもてる職場でもあります。(そのリスクとして、全く知らない政策に携わることになった際には苦労の毎日ではありますが・・・)

社会人になって強く感じたことは、一つ一つの仕事にはとても責任が大きいということと、人間関係の重大さでした。いくつかの仕事を並行して行っているため、一つ一つの仕事において結果がでるのは時間がかかるものですが、それだけに成し遂げた時の充実感は大きく、また、そこにニーズがあるとささやかながら、喜びを感じることもあります。仕事の中で落ち込むこともありますが、毎日、忙しいながらも充実した日々を過ごしているのはそのささやかな喜びのせいかもしれません。

もう一つの人間関係の重大さに関しては、これは社会人である・ないに関わらず、どんな状況でも重要なことかもしれませんが、学生時代と違うことは、より幅の広い年齢層と、より多くの人々と関わりを持つようになったということだと思います。それだけに、今まで以上に苦手と感じる人や、今までに出会った事のない人、仕事以外でも様々な知識を与えてくれる人もいます。仕事で困った時にはその方向性を導いてくれる人もいます。一言でいえば、社会はまさに人種のるつぼなのだと思います。これからも、多くの人と出会うことで、今まで得てきた以上のことをこの職場のみならず、様々な場で得ていきたいと思っています。

---

## 「ワシントン・アコード加盟について」

寄稿 教授 篠田 庄司

### プレスリリース

この度、6月15日香港で開催された第7回ワシントン・アコード(WA)総会において日本技術者教育認定機構(会長吉川弘之)の加盟が全員一致で承認されました。非英語圏ではじめて日本を代表する技術者教育認定機関として、JABEEの加盟が認められました。

JABEEは、大学等の高等教育機関が行う技術者教育プログラムの認定を通じて、我が国の技術者教育の質保証体制を確立し、併せて国際的な同等性を確保することを目的として1999年11月に設立されました。2001年から認定審査を開始し、2004年度までに97校、186プログラムを認定し、国内外に公表しています。

JABEEは設立準備の時期から、我が国の教育制度を踏まえつつ、認定基準や審査の手順と方法などについては、米国等WA加盟国との実質的な同等性を確保できる認定審査システムを構築してきました。2001年に暫定加盟を果たし、その後の制度確立と認定実績により、2003年11月と2004年4月のWA審査団による訪問審査を経て、今回正式加盟が実現しました。このことにより、JABEEにより認定された技術者教育プログラムの修了生は、加盟国の同一分野のプログラム修了生と同じ技術者教育を受けた者として認められることになります。我が国の技術士制度においては、JABEE認定プログラムは官報に告示され、その修了生は技術士第一次試験が免除されて、直ちに技術士補となる資格を得ることができます。

## ワシントン・アコードとは

1989年11月に、オーストラリア：Institution of Engineers, Australia(IEAust)、カナダ：Canadian Council of Professional Engineers(CCPE)、アイルランド：Institution of Engineers, Ireland(IEI)、ニュージーランド：Institution of Professional Engineers, New Zealand(IPENZ)、米国：Accreditation Board for Engineering and Technology(ABET)、及び英国：Engineering Council(EC)の技術者教育認定機関が、それぞれの認定基準及び審査の手順と方法が実質的に同等であることを相互承認し協定を結んだ。これが所謂 Washington Accord (WA)と呼ばれるものである。その後1995年に香港のHong Kong：Institution of Engineers(HKIE)、1999年に南アフリカ：Engineering Council of South Africa(ECSA)が加盟承認され、加盟団体は8団体となっている。2001年に日本からJABEEが、2003年にドイツ、シンガポール、マレーシアのそれぞれの認定機関の暫定加盟が認められている。アングロ・アメリカン諸国からスタートしたWAは、2001年の日本の暫定加盟を機会に非英語圏を含む世界の技術者教育認定機関の相互協定へと変遷・拡大し、2005年に新たに韓国、台湾が暫定加盟国として承認された。ロシア、中国なども加盟準備を進めている。

WAは、他の加盟団体が認定した技術者教育プログラムの修了者に対し、自国の認定機関が認定したプログラム修了者と同様な専門技術者の免許交付や登録上の特典を与える前提として、実質的同等性に関する国際協定となっている。

WAの新規加盟が承認されるためには下記条件を満たさねばならない。

- ・最低2加盟団体の推薦と加盟団体の2/3以上の賛成により暫定加盟となっていること。
- ・暫定加盟後、申請機関により制定された認定基準と認定審査の手順と実施方法についてWAの審査チームによる包括的な訪問審査が実施されていること。
- ・既存加盟団体の全員一致の承認が得られること。

(JABEE ウェブサイト) <http://www.jabee.org>

## 吉川会長メッセージ

大学、学協会、企業などの多くの関係者の努力によって、JABEEは着実に歩みを進めてきました。その努力がこのたびワシントン・アコードへの加盟承認として実を結んだことは大きな喜びであり、ここに関係者の方々に深甚の謝意を表します。日本の教育が国際舞台に登場するのはあまり例が無いことであり、このたびの加盟は、日本の技術者教育が新しい段階に入ると同時に、教育の分野での国際的責務が大きくなったことを意味します。今後は技術における研究開発のみならず、技術者教育の分野でもわが国が国際的に大きな貢献をすることが期待されます。



## ガバナ屋 38 年

昭和 40 年卒 林 直 司

### 「ガバナ」って何だ？

ガバナはエンジンやタービン等のいわゆる原動機と呼ばれるもののエネルギー量（燃料量等）を調整する機器なのです。例えばエンジンの速度を一定に保つ為に燃料量を制御しますが、機械なり電子なりを駆使して自動的に取仕切るのがガバナなのです。車の運転する時、坂道の登りもあれば下りもありますね。そんな時速度を一定に保つのは運転者が速度計を見ながらアクセルペダルを調整しますよね。オートクルーズだったら自動的に車速を設定値に保ってくれますよね。それと似た役割をするのがガバナです。

### 「ガバナ」はどんなところに使われているか？

ディーゼルエンジン、ガスエンジン、蒸気タービン、ガスタービン等の原動機が発電機を回す場合、それらのエネルギーを制御して発電機の速度（つまり周波数）を一定に保つ働きをガバナがします。船のエンジンの速度も制御し、船の速度を思い通りに変更し又保ちます。飛行機のエンジン（ジェットエンジン）の燃料を制御して、飛行速度を一定に保ったりもします、そこにもガバナが使われます。最近では燃料などの燃焼を最適にすることによって地球環境にやさしい制御が提供でき、必要なエネルギーを効率的に使いながら排気ガスなどをクリーンにする技術も提供しています。石油精製所、各種製造工場、発電所、ゴミ焼却所、等から病院の発電設備、スーパーなどの発電設備などにも活躍しています。空に海に陸に原動機あるところ、縁の下の力持ちとしてガバナが日夜活躍しているのです。

### 「ガバナ」メーカーに就職

今から 38 年前に、世界一のガバナなどの制御機器、システム機器の専門メーカーである、米国企

業、ウッドワードガバナ社に入社しました。技術者として、営業技師として又その後経営の一翼を担いながら、エンジンやタービンメーカーの顧客とその時々最新のシステムを提供して、日本の産業界の発展に陰ながら貢献できたものと自負しています。学生時代に苦手だった英語がビジネス用語として今でも私のキャリアを支えてくれたことは不思議でもあります。大学で赤点をとっていたのに、35 年間会議等は英語が公用語だったのでから自分でも驚きです。米国の本社や世界各地のエンジニアと技術やビジネスに付いて英語で議論を戦わせてきました。

### 企業家となる

3 年前（59 歳）、ウッドワード社を早期定年退職し（ウッドワード社の定年は 65 歳）株式会社ウッズを設立し、ウッドワード社からアフターマーケット事業と船用制御システム事業の営業権を譲渡され独立しました。現在 27 名の社員と一緒にウッズの発展に日夜張り切っています。高校時代に没頭したバスケットが今の基礎体力を支え、現在趣味としているゴルフも仕事のストレスから開放してくれます。中大時代に十分出来なかった勉強は、社会人になってからの日頃の必要に対応した生きた学習によって業界で通ずるレベルに高められました。お蔭様で起業初年度から黒字続きと業績も順調で、現在も増収増益を続けております。退職金を注ぎ込み、定款作りから会社登記まで全て手作りで始めた会社ですが、社員の頑張りとお客様からのご理解で今日に至っておりますこと、全てに感謝です。中大時代の同期との毎月の意見交換を兼ねた飲み会やら、ゴルフ等で活力を再生産しています。

ULR: <http://www.woods-corp.co.jp> を参照。

## 「友有り・・・」40エレキが集う

昭和40年卒 嶋原真澄

薄暗くなった夕方、銀座5丁目の有名画廊に男たちが続々と集まる。どう見ても普段は画廊などに足を運ぶようには見えない。西川健二、アメリカでは少しは売れた画家らしい。そう言えば、ここ2～3年でUSA 公募展入選10回の実力は持っている。奥様は「主人の趣味につきあわせて申し訳有りません」などと口では言うが、ご本人以上にうれしさを隠せないようだ。集まった40エレキのメンバーは、お互い同士の元氣な再会を喜んで、或いは主催者にしたら迷惑かもしれないが、絵画はそっちのけの盛り上がりようだ。

40エレキとは、その名の通り昭和40年大学卒業の同級会の集まりだ。今年は卒業して40年目の節目にも当たる。多少いい加減な幹事役と会場となる中華レストランオーナー、彼らが何となく纏め、そして名簿作りや、こまめな情報発信、名ハモニカ演奏などメンバー全体が支え合っている会だ。年に6回プラスαの飲み会は土曜日の午後1時半から5時頃までの長丁場、全く遠慮することなく飲んで喰って騒いでいる。昼の飲み会なら、多少酔っぱらっても本人も楽し奥さんも安心できるだろう。毎回10人程度が集まるが、わずかな常連を除いては、その都度大幅にメンバーが入れ替わる。だから毎回自己紹介などで確かめ合い、しゃべり出したら止まらないのである。

かの幹事から新年早々嬉しいメールが届いた。「新年おめでとうございます。米テキサス在住の西川君が個展を開く事になりました。ぜひ訪問してください。個展を見た後にいつものワイワイやりませんか」。そして西川本人から、「年も改まりました。未だ現役で活躍されている方、もうすっかり悠々自適隠居された方、又その間をさまよ

っている人と色々想像されますが、小生は3年前に早期仕事放棄した組です。趣味の絵が一人歩きして今回展覧会を催す事となりました。最近作30点を下記画廊にて展示します。もし水彩画に興味がありましたなら幸いです、ぜひ御高覧下さる様御案内申しあげます。学窓を出て40年、渡米して35年、旧交をあたためることが出来れば幸いです」。

この日の飲み会はいつもの倍の20数人が集まり、アメリカも遠いが奈良や三重からわざわざ駆け付けるのも嬉しいものだ。これだけの人数は幹事力だけではない、仲間の個展に引かれて、長いアメリカ生活はどんなものか、興味津々なのである。みんな名前を忘れたり、顔と名前が一致しなかったり、久しぶりの再会を楽しんで会話は途切れることがない。主役のはずの西川も特別扱いをするわけでもない、彼は当然初めての出席だ。唯、皆が待っていた彼の奥様も同席して欲しかった、口には出さないが皆そう思っている、来週にはアメリカに戻ってしまうのだ。“友あり遠方より来る、また楽しからずや”この格言は、西川だけでなく、お互い全員に当てはまりそうだ。昭和40年に巣立って40年が経った、そして皆で飲んで騒いで、楽しんでいる。無理する事もない、肩もこらない自然な集まりだ。それでいて有効な情報交換もしているつもりだ。だから、これからは派手ではないが、ずーとこの会は続くだろう。

40エレキは、何にも代え難い何処にも負けない我々の誇りだ。

同期会は偶数月の第一土曜日 13:30 から定例会を開き、学生時代の昔話や各自の近況報告等のフ

ランクな話題で盛り上がっています。まだ出席した  
ことのない人もぜひ一度来て見てください。会  
費はオーナー島田君のはからいで格安特別料金で  
す。楽しいひと時をすごせますよ。同期でない  
人も神保町に来た時は、寄って島田社長の同窓だ  
と云えばサービスしてくれるかもしれません。

場所：神田神保町 1-5 すずらん通り

中華レストラン“三幸園” 03-5280-1231

地下鉄“神保町”（半蔵門線/都営三田線/都営  
新宿線）A-7 出口

オーナー：島田靖弘（40年卒）

幹事：井上哲也 048-526-4438

携帯 090-8852-6123

E-Mail t-in5517@ps.ksky.ne.jp

写真前列左から 野末佳伸、知覧行寛、島田靖博、  
中列左から 都志見靖夫、井上哲也、西川健二、  
藤本昌彦、守田充保、北川健二、  
大塚弘光、黒河宏、  
後列左から 中川士郎、嶋原眞澄、加藤武男、  
林直司、門原健男、鈴木信夫、  
福島弘、小山敏郎、山口功



## 会誌発行事業費の集計報告（その4）

会誌41号発行以降に皆様から寄せられました「会誌発行事業費」について、集計結果とご協力頂きました方々のご芳名を報告いたします。

### ● 会誌発行事業費集計報告

申込総口数：360.8口

申込総人数：270人

申込金額計：1,914,000円

収入金額計：1,898,100円（振込手数料15,900円差し引き後）

### ● 会誌発行事業費納付者ご芳名

|       |       |        |       |       |       |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 猪狩武尚殿 | 長田孝弥殿 | 佐々木 裕殿 | 小島 豊殿 | 岡田 章殿 | 嶋原眞澄殿 |
| 島田靖博殿 | 知覧行寛殿 | 佐枝幹彦殿  | 高橋 章殿 | 横山光延殿 | 桜井 洋殿 |
| 大野 孝殿 | 佐藤 直殿 |        |       |       |       |

### ● 会誌発行事業費・終身会費の納付先口座のご案内

引き続き、昭和年代に学部を卒業された方は

会誌発行事業費：1口 5,000円 1口以上何口でも、

平成年代に学部を卒業された方は「終身会費（1万円）」の受付を行っておりますので、同窓で未納或いは未入会の方がおられましたらご協力お願いの声をかけて頂き、下記の口座をご紹介下さるようお願いいたします。

また、既に一度「会誌発行事業費」をご納付された方も再度のご協力を頂ければ幸いです。

### 【 郵便振替口座 】

口座番号：00130-7-752276

加入者名：中央大学理工学部電気・電子工学科同窓会

通 信 欄：住所・氏名・学部卒業年および「会誌発行事業費」か「終身会費」のいずれかの納付であるかを必ずご記入下さい。

## トドの詰まり文化論（その9）

# 《国家間の歴史問題をどう捕らえるか？》

昭和39年卒 菱沼一夫

今年の4月の末に包装界の動向調査でドイツの北部から南部の数都市を10日余りかけて視察してきた。

来年開催されるワールドカップの準備が着々と進められているのが目に付いた。改めて第2次世界大戦の同盟国の戦後と今日のドイツの生い立ちを見聞した。ドイツは4000年前頃には部族の居住が前身になっていて、AC1300年頃に国家の体裁を成してきた。



新装なったミュンヘンのサッカー場；  
2006 ワールドカップのオープニングゲームが開催される

耕作には不適な風土の関係で狩猟が生活の糧であった。今日の世界を代表する食肉加工と保存技術の特徴の基礎になっているそうである。今日のドイツ国家の成立には新生ローマ帝国との関係が非常に強い。AC1000年頃から始まったローマ帝国の侵攻はライン川を境にして東側と西側では都市形成に大きな相違をもたらしている。世界遺産にも登録されている632年も掛けて完成したケルンの大聖堂はロー

マ帝国の代表的な遺産でもある。今日のライン川の膨大な水量と流速を観ても理解できるが、侵攻した当時のローマ帝国軍はライン川と言う自然の要塞に阻まれて西側から東側のそれぞれ部族を制圧するのはさぞ至難であったことが感じ取れる。この自然条件が多く文化や宗教の展開を生んだものと思われる。ドイツの近代化の過程には、ラテン語からドイツ語への翻訳、1517年のマルチン・ルターの宗教改革、その後の30年間（1618年～48年）の宗教戦争によってプロテスタントが認められた。しかしプロテスタントは個人のレベルで信仰の自由が認められたのではなく、領主がカトリックを支持するかプロテスタント信仰するかを選択であって個人的なものではなかった。今日、主要都市の70%以上はカトリック司教の所有地だそうである。ドイツの今日の政治は実質的にはカトリックの司教区がベースになっているようである。

1800年代には隣国のフランス等からの侵略によって国内は分断されていた。

ビスマルクは一連の戦争を指揮し戦勝して1871年に統一を計りドイツ帝国（第2帝国）の宰相に付いている。同時代にマルクス／エンゲルスによって社会主義思想が展開されレーニンによってソ連共産主義国家の制定につながっている。（資本主義の隆盛による人々の不満／不安が増長していたのであろうか？）第1次世界大戦（1914～18年）はドイツ・オーストリア・イタリアの三国同盟と、イギリス・フラ

ンス・ロシアの三国協商との対立を背景にヨーロッパを中心として起こった世界的規模での植民地や勢力範囲の再分割をめざす帝国主義戦争であった。この敗戦によってドイツは落ちぶれ国内ではインフレ、失業等で国民の生活は不安のどん底に至った。



ケルンの大聖堂；帝国ローマの侵攻の代表的な建造物 632年かけて完成。世界遺産に登録済み

オーストリアに近いドイツ南部に社会主義を標榜するナチ党が結成され、後にオーストリア生まれのヒトラーが党首、総統になり独裁政権に進展する。

ヒトラーはドイツ全体に分散する都市間を結ぶ道路（アウトバーン）の建設を推進した。当時、自動車は上流階級しか使えなかった。ヒトラーは当時のドイツの自動車生産の巨頭だったダイムラーとベンツに国民向けの「安く、壊れない」自動車の開発を国家プロジェクトとして命じてVolkswagen（国民の車）を作らせた。失業対策と経済の大改革を達成した。ヒトラーは従来から（ルター以来）のドイツ語を国語として統一を果たし、コミュニケーションの円滑化を達成している。

6年でインフレをなくし国民の圧倒的な支持を得て 1933 年に政権を取ると一転してファシズム政治体制に移行し、1939 年にポーランド

侵攻し、日・独・伊などと米・英・仏・ソなどの連合国との間で第2次世界大戦の勃発となった。

ドイツでは「ホローコースト」と言われるユダヤ人の大虐殺事件がある。この原因要素には単なる独裁政権の行動ではなく、ドイツ国家の成立に至る数百年以上の経緯（歴史）における宗教、民族の争いが背景にあって、その問題を短期的に解決しようとしたところに大悲劇が起きている。

日本の歴史問題に付いて同様に考察して見よう。我々のDNAは関係諸国とは無縁か？ “トドの詰まり論”的に日本人の発想を診れば、今日の日本人にはシルクロード文明の集大成に加えて、更に 1000 年以上ものエッセンスの凝集が行われている。

千数百年も島国に押し込められて独自の文化（論理）醸成が行われてきた。

戦国時代を経て統一国家としての“行政”が行き届くようになって国家としての価値も高まり徐々に近隣諸国にも存在が行き渡るようになり、1200 年代には人間の流入から国の略奪 [蒙古襲来] があり日本の権力者には侵略の危機感語り継がれたのであろう。日本の国家統一を果たした“権力者”の豊臣秀吉は 1580 年代に 2 度の朝鮮侵略に出征している。

徳川時代の 300 年は部分的な交易はあったにせよ侵略、侵攻はなくこの“島国安全感”は現代の日本人に大きな影響を及ぼしていると筆者は思っている。

ペリーの来日によってアメリカの極東進出（アメリカ版トドの詰まり論）が具体的に始まり、明治政府（権力）は豊臣秀吉の意向を受け付けて（？）日清戦争に移って行った。更に第二次世界大戦に発展して、極東の支配の野望が再発した。

敗戦によって、（アメリカの“好意的な配慮”

があって)日本はドイツと共に敗戦国としての“模範的”な今日の体制を60年間かけて作り上げた。

しかし、日本の大繁栄は結果としては、かつての侵略国に貧富の差を拡大する新たな“経済侵略”を果たすことになっている。今日、中国や韓国は小泉首相の靖国神社参拝や教科書の記述を問題にして、かつての日本の極東侵略は終わっていないとスケープゴートにしている。「ヒトラーの墓参りをするのと同じだ」と揶揄もされている。

しかし、物質的に豊かさの達成が“平和”と思っている今の日本人には何を言っているのか理解しがたい。

中国には10兆円位ODAが既に支払われている。日本人の多くは戦後補償と思っているが、はっきり言わない“奥ゆかしさ”が仇となっている。自分達は“悪かった”と正面を切って国家的な「処置」をし、分断した東ドイツを取り戻し、国家の統一を果たしたドイツとは際立った違いになっている。

韓国、台湾、中国への日本の企業進出は彼らの経済発展に貢献したのに感謝の気持ちがちっともないと多くの日本人は思っている。当該国の人達が少しだけ豊になると、「日本から生産拠点を移して、誰が一番良い思い(儲け)をしたか？」当事者が一番良く知り始めたことを知ろうとしているか？

日本やドイツの現状を観て(ドイツを名指しはしないが)国連の常任理事国入りを快く思うわけがない。

最近の報道で韓国の大統領が『先人は豊臣秀吉の朝鮮侵略を撃破したことを誇りに思う』や韓国から『日本の天皇の血筋は朝鮮民族である』との報もある。

今日の日本に対する“歴史問題”は必ずしも“靖国”の問題ではないのではないか？中国や開発途上国はかつての日本製の「A級製品」を必要不可欠と思わなくなっている。自分達の作る(模倣かもしれないが)B級製品でも十分機能することを知り始めた。中国で、日本でも買い手が付かない位な“高価”なものが飛ぶように売れると言うことを自慢にしている“変な”日本企業がいる。それをあたかも“優れた”企業活動と報じる“一流”のマスコミがある。当事国の人から見れば貧富の差を騒ぎ立て、多くの人々の気持ちを逆撫でしていることに気付いていない。

「歴史問題」の本質的な問題が何であるかを再考してみたい。

歴史は、大国の支配は「社会主義」の導入に始まって結局は独裁に至る物語を多く呈している。そして大国が“民主主義”に寄った時、群雄割拠政権によって混乱が起こるのであることも示唆している。2000年以上も前の問題の“起点”は今日未だ脈々と続き、更に新たな問題さえ生んでいる。大儀がなかなかまかり通らない。人々の「世論」は私利私欲を決して容認してくれないこと改めて考え直したいものである。

ドイツに滞在中のデュッセルドルフで、近郊に在住、在職している百人弱の反日デモが日本の企業が集中している市の中心で行われ、自分の行動にも若干の制約があった。

このデモは本国(北京)に対してこの地のシンジケートの存在を鼓舞する狙いであることが下馬評であった。

(菱沼技術士事務所・代表 2005年7月記)

E-mail: rxp10620@nifty.com

## 中大電気同窓会 役員・常任幹事

(任期：平成16年11月13日～平成18年総会開催日)

平成16年度総会にて選出された役員および常任幹事の皆様を紹介いたします。

|       |                |      |                |
|-------|----------------|------|----------------|
| 会 長   | 天 野 浩 志 (再任)   | 常任幹事 | 門 原 健 男 (再任)   |
| 副 会 長 | 市 川 友 之 (再任)   | 〃    | 富 田 紘 志 (再任)   |
| 〃     | 菱 沼 一 夫 (再任)   | 〃    | 志 村 公 夫 (再任)   |
| 〃     | 田 口 昭 夫 (新任)   | 〃    | 岩 瀬 暢 男 (再任)   |
| 〃     | 萩 野 征 治 (再任)   | 〃    | 亀 田 俊 夫 (再任)   |
| 〃     | 菅 原 正 人 (新任)   | 〃    | 飯 塚 信 市 (再任)   |
| 監 事   | 築 山 修 治 (再任)   | 〃    | 高 橋 信 一 郎 (再任) |
| 〃     | 黒 崎 勝 吉 (再任)   | 〃    | 細 田 浩 希 (再任)   |
| 顧 問   | 吉 江 實 成 彦 (再任) | 〃    | 宮 崎 真 由 美 (再任) |
| 〃     | 堀 中 武 和 (再任)   | 〃    | 國 井 康 晴 (再任)   |
| 〃     | 青 木 義 雄 (再任)   | 〃    | 関 口 秀 紀 (新任)   |
| 常任幹事  | 田 伏 良 雄 (新任)   | 〃    | 笈 川 泉 (再任)     |
| 〃     | 山 口 功 (再任)     | 〃    | 櫻 井 宏 樹 (新任)   |

## 篠田教授 電子情報通信学会「業績賞」受賞

本学科卒業の篠田庄司教授が5月28日に、電子情報通信学会から、新潟大学の仙石正和教授と共同で、「回路と情報通信のグラフ・ネットワーク理論的研究への先駆的貢献」ということで、業績賞を受賞しました。賞状には、次の文言が書かれています。

「あなたがたは、回路と情報通信のグラフ・ネットワーク理論的研究に尽力され、多大な成果をあげられました。

この研究は、従来存在せず未解決であったフローネットワークにおける最適配置問題の解法を与えると同時にネットワーク理論の新しい概念を創り出し、それとともに回路・情報通信ネットワークへの応用(コンピュータにおける資源配置、移動通信におけるチャネル割り当

て、マルチホップ無線、通信トラヒック理論解析等)を研究し、この分野の新しい領域を世界的に先駆けて切り開いた画期的なものであります。この研究の成果は、移動通信を含む情報通信ネットワークの最適設計に応用できると同時にグラフ・ネットワーク理論そのものに新たな領域を開いており、これらの分野の進歩に寄与するところが極めて大きく、その業績はまことに顕著なものがあります。

よって、ここに本学会選奨規定により業績賞牌および賞金を贈呈し表彰いたします。」

篠田教授はこれまで、4件の論文賞を受けていますが、研究に関する最高の学会賞である業績賞の受賞で、大変感激しておられることでしょう。おめでとうございます。



## 同窓会新規入会者のご紹介

平成17年5月20日現在

| 研究室名 | 入会数 | 入 会 者 名 (敬称略)   |
|------|-----|---|
| 稲葉研  | 1   | * 根本明仁  |
| 木下研  | 0   |   |
| 國井研  | 10  | 矢野良平 長谷川論明 小山可南子 原 祐輔 佐々木 稔<br>宮崎 学 相馬盛孝 * 染谷智樹 * 森山 誠 * 渡 正行                         |
| 小林研  | 0   |   |
| 篠田研  | 5   | 小柳 智 小林美香 * 鈴木 仁 * 松本智也 * 御園生 薫   |
| 白井研  | 9   | 中田 優 * 平松義範 * 小柳津大樹 * 田中佑樹 * 今野 豪<br>* 大久 潤 * 熊原 亮 * 小清水 克 * 松井裕介                     |
| 庄司研  | 2   | 荒居明德 中島 敏   |
| 杉本研  | 0   |   |
| 高窪研  | 0   |   |
| 築山研  | 14  | 臼井翔平 高橋真吾 田治 輝 秋元孝博 霜山 涉 中谷敬幸<br>丸田 泰 井上靖之 遠藤裕樹 鈴木康之 * 小酒部泰明<br>* 齊藤弘紀 * 鈴木慎太郎 * 菊田雄平 |
| 徳丸研  | 0   |   |
| 羽鳥研  | 1   | 杉山俊光  |
| 二本研  | 1   | 清野悠介  |
| 山村研  | 5   | 宮下雅嗣 頼 犁 小澤健太郎 * 今井 右 * 田中克昌  |
| 合 計  | 48  |   |

\* 印：大学院在学および修了者

**訃報** この1年間に訃報に接した方々です。謹んでご冥福をお祈り致します。

堺 直治さん(昭和31年卒) 小山敏郎さん(昭和40年卒) 小出 毅さん(昭和40年卒)  
一森繁生さん(昭和41年卒) 本橋 健さん(昭和47年卒) 米山英夫さん(昭和47年卒)

## 同窓生からのお便り

(平成16年度返信葉書からの転載、都道府県は現住所)

今年4月にガンにならない方法を、友人の医師から聞きました。人体のどこかにガン細胞ができた時、心身が健康であれば、ガンの抗体エヌケイNKが発生し、ガン細胞を殺してしまっ、ガン病になりません。過労で疲れていたり、心が沈んでいると、ガン細胞の増え方の方が多くて病気になる。常に心が明るく、良好な心身状態を保っていれば、ガン病になりません。ガンに限らず大きな病気にならないために、身と心の健康が大切ですね。4月に台湾旅行を7日間しました。11月にアメリカに行く予定です。

(元教授 東京都 吉久信幸)

今年も同窓会のご案内を頂き有り難うございました。小生も定年退職して、はや11年目、お蔭様でまだ元気しております。“50周年期年号”を拝見して、電気電子情報通信工学科も、私共の在職当時に比べ、飛躍的な発展をとげたと感じております。かつての卒業生の方々も多く定年退職され、今更ながら時の移り変わりの速さを痛感しています。

(元教員 東京都 深井 昌)

同窓会会誌その他で卒業生の皆さんが元気で活躍されていることを知り嬉しく思っています。

小生、平成14年に中大を定年退職した後、老人性肺結核で6月から10月まで入院、平成15年3月治癒、平成16年7月膀胱結石で内視鏡手術を受けたあと、初期の前立腺がんの治療を受け、現在経過良好です。

昨年、電気学会の回転機標準化委員会の委員長を辞任し、引き続き委員として協力しています。中大の電力工学実験室には昨年から時々顔を出し

ていますが、ほんの少ししかお役に立っていません。卒業生の皆さんが健康に留意され良い仕事をなさるよう、お祈りいたします。

(元教授 千葉県 猪狩武尚)

老々介護です。母(99歳)、私(75歳)。1日3食の胃瘻(チューブで直接、胃に液体の食事を入れる)で疲れています。

(昭和28年卒 埼玉県 竹中四朗)

卒業以来50年の経過を見ました。制御機器の電気装置の製作販売をしております。体力的には衰えを感じませんが元気で頑張っています。

(昭和29年卒 山形県 清野 剛)

本学も早や50周年を迎え小生も76才を過ぎ毎日が日曜日で唯一の日課は体力の補足とし散歩に努力してまいります。今年は猛暑で足腰共に衰えました。アテネオリンピックはテレビで釘付けでした。

小生、夜間部の為、旧友との交流が少なく、旧工専時代の友人、鈴木昭太郎兄、佐藤計士兄、上田平三郎兄他20余名と'96年頃から2001年頃迄はクラス会を楽しみに再会しましたが現在は散会となり残念です。毎年の総会に出席出来ず失礼しております。本学のより良い発展を願っております。皆々様に宜しく。

(昭和29年卒 東京都 山本 憑)

今年度より小倉神社総代、町内会副会長、川崎市明るい選挙推進委員を委嘱され、地域の為に少しでも役に立てればと活動しております。第20回参議院議員選挙では期日前投票も含め投票管理

者、投票立会人を無事勤めました。

元気なうちに今年は Australia, Cairns の世界遺産 Kuranda, Great Barrier Reef, Perth の Pinnacles, Wave Rock, Rottenest Island に行き楽しんできました。

(昭和 31 年卒 神奈川県 川喜多良行)

1 年ぶりに学内の動きがわかり、うれしく感じました。最近富山県内に於いても各企業が大学の研究グループと一緒にノウハウを出しながら製品の開発に力を注いで居ります。中央大学はどうでしょうか、気になりますね。私は現在、老年性腰痛症にかかり、毎日リハビリに一生懸命です。年はとれないものですね。

(昭和 31 年卒 富山県 堺 直治)

いつもお世話になっています。折角ですが、今回は欠席させていただきます。会社のOB会の懇親会やら、自治会の行事、高校の同期会、趣味の日本舞踊、ゴルフなどの予定が立て込んでしまいました。次回には出席したいと思っています。

(昭和 32 年卒 神奈川県 青木義雄)

「参加する事に意義有り」と毎年出席します。

(昭和 32 年卒 大阪府 内田 信)

50 周年年号ありがとうございました。特記事項で改めて諸先生方の消息が判りました。お世話になった吉久先生が健在であり、益々のご健康を祈ります。毎年秋に有志が集まり、お互いの無事を確認し合っていますが、既に 6 名が死去し、3 名が病で不参加、不明が 5 名、毎回 10 名前後の集まりを持っています。事務局の皆様方の一層のご活躍を祈ります。

(昭和 32 年卒 神奈川県 村島 清)

毎日元気に生活しております。

(昭和 33 年卒 群馬県 小林邦男)

平成 15 年 12 月に「高度房室ブロック」と診断され、心臓ペースメーカーを植え込みました。ペースメーカーとは一生付き合っていくことになるので、慣れるよう心掛けています。

(昭和 33 年卒 神奈川県 永井 甫)

諸兄もお元気の事と拝察致します。私もフィリピンに進出して 11 年がたちました。コスト面では中国に負けない低コスト体質は出来たと思っています。スイスの民間経済研究機関“世界経済フォーラム”が発表した世界 104 ケ国・地域を対象にした経済競争力報告でフィリピンは 4 年連続して下落し 76 位との事、インドネシアより下位となりました。ここでやっとマニラには白門会が無い事に納得出来た次第です。ナマケ者と汚職の国フィリピンよりの近況です。

(昭和 34 年卒 在フィリピン 佐々木 裕)

中学生の時始めた水彩絵を先生について本格的に絵き始めました。プロになるのは難しいと思いますが、その気持で勉強しようと考えています。年と共に視力も低下、指先の動きも滑らかさに欠けてきますので、今をしっかりと大事にして絵き続けたいと願っています。将来、個展が開ければ最大の喜びです。

(昭和 34 年卒 東京都 塚原達雄)

市川先生は、「仕事のない程、多忙なことはない」と会誌に述べておられます。多忙の中味は当然違いますが、私も仕事というほどのことはしておりませんが、なぜか多忙です。元気です。

(昭和 34 年卒 神奈川県 渡部一雄)

郷里、福山へもどり新たな挑戦で体力の維持、知識の拡大に努力しています。一方、旧友とのおつきあい、親戚の行事への参加など忙しく過ごしています。

(昭和 35 年卒 広島県 重政弘康)

本年 6 月で仕事を終わりましたが、逆にプライベートのスケジュールが忙しくなりました。従来趣味のゴルフに加え、ひまな仲間との旅行や、7 人の孫達とディズニーランド等遊園地への付き合いなどに振りまわされています。

(昭和 35 年卒 神奈川県 島崎幸雄)

7 月末、角田現中央大学学長が福岡白門会へ来福され、秘書と一緒に当社の工場を見学され、後、二日市温泉へ同行して満足して帰郷されました。学長は佐賀の方で、昨年は福岡、佐賀と御一緒しました。

(昭和 35 年卒 福岡県 新開盛治)

我々 35 年卒は毎年 2 回ゴルフコンペをやっている。会は「電気 35 ゴルフ会」メンバー 23 名ですが、常時参加は 10 数名。10 月 22 日に第 19 回大会をやりました。健康をたしかめ合い痛い足をかばってラウンドする人もいます。何と言っても 1 泊しての猛烈な談義が魅力で集まってくるのです。ゴルフの成績もさることながら趣味、家族の話、好色話、思想、政治と幅広く口角泡を飛ばしての激論です。全員が長生きしようと、当コンペは参加者が 3 人になる迄やろうと誓い合ったのだった。

(昭和 35 年卒 埼玉県 田伏良雄)

科学技術者フォーラムで環境(砂漠化防止)を 7 年間、P/J の仕事をしています。中国には無限のテーマがあります。仕事をするのは、日本国内だけではありません。逆に、中国は日本で企業

を起こそうしています。この状況を理解すべきです。日中貿易交流協会を 8 月末創設しました。

(昭和 35 年卒 神奈川県 橋村武司)

スイスアルプス一周ロングステイ(平成 16 年 6 月 22 日~7 月 12 日 21 日間)の旅へ。フランス・シャモニーからスイスのシャレーに泊まりながら天候にも恵まれ、スイスを代表するエーデルワイス・アルペンローゼの花また花・・・が見られ、モンブラン・マッターホルン・メンヒ・アイガーと 4,000m 級の山の美しい雄姿も・・・。そして、マッターホルンの麓のヘルンリ小屋(3,200m)まで登ることが出来た健康に感謝しています。アルプスの山々のすばらしさを実感してきました。

(昭和 35 年卒 茨城県 村井康男)

37 年卒の電気科同窓生の一部 10 名程度が毎年、忘年会と暑気払いを行っています。電気科同窓生で参加希望の方は、江波戸(045-332-3767)まで一報いただければ御案内をさしあげます。

(昭和 37 年卒 神奈川県 江波戸勝樹)

私はいたって元気です。妻の介護に明け暮れしている毎日です。

(昭和 38 年卒 東京都 五本 武)

早めに日本コロムビアを退職して 10 年になりました。それ以来、好きな釣り、ゴルフ、スキー他を楽しんでいます。同年代の方もリタイア人が多いと思いますが、その人達はどのような生活をしているのか、アンケート等をして頂ければと思います。今年の 9 月 17 日は 38 年組のゴルフコンペに出席しました。

(昭和 38 年卒 栃木県 山本立夫)

引続き、コンクリート2次製品メーカーの経営に携わっていますが、厳しい経営環境にて収益確保に苦慮していますが元気にやっています。学校の発展、同窓生のますますの御活躍を励みとしています。

(昭和39年卒 埼玉県 齊藤榮喜)

昨年リタイアして早くも1年3ヶ月が経過しました。毎日好きなことをして楽しくやっております。最近、発明学会なるものに参加し気ままに考案、試作、申請出願などして楽しんでおります。

(昭和39年卒 東京都 本荘一実)

元の会社からの要請で、週2日の出勤そして余暇に、シルバー将棋、ゲートボール、社交ダンス、旅行とフル回転しています。同窓生の御多幸をお祈りします。

(昭和40年卒 東京都 坂本吉通)

6/末、第2の職場である東電ピーアール(株)を定年退職し、今度は東京電力株光ネットワークカンパニーに再就職しました。

(昭和41年卒 東京都 田口昭夫)

今年、平成16年12月5日で定年退職後、満2年を迎えます。毎朝5時頃起床、5時半家を出て、谷津干潟で6時30分より自然に集まる近所の住人50~60人と一緒に、ラジオ体操第一、第二で体をホグシ、7時過ぎに帰宅、朝食で一日がスタートです。今年8月より61歳の手習いで、ボケ防止の為、囲碁教室へ通っています。ある程度、打てるまで1年位かかりそうです。1日、1万歩を歩く事、好きな本を手当たり次第に読む事、毎日の一杯は「いいちこ」から、二男坊が呑んでいる焼酎「鏡月」GREENに変え、日々ご機嫌でやっています。

(昭和41年卒 千葉県 富田紘志)

平成15年7月末日(株)中電工を60歳定年退職し引続き子会社(電気設備設計)に勤務しております。健康に留意し現役で出来るだけ長く頑張ろうと思います。サンデー毎日ほうはもうしばらくは望めそうもありません。皆様の活躍と御健康をお祈りします。幹事の皆様、同窓会の運営大変御苦労さまです。よろしくお祈りします。

(昭和41年卒 広島県 橋本正樹)

今年、H16年6月30日に東芝グループを退職しました。退職前から仲間3名に呼びかけて、半導体関係のエンジニアリング会社を立ち上げています。エンジニアリング会社は設計技術者の実践的教育トレーニングと人材の派遣を柱に推進しています。会社の中にいた時は思うように若い人の教育トレーニングができなくて心残りでした。エンジニアリング会社組織でこれを試みたいと思います。

(昭和42年卒 東京都 中田靖夫)

今年は趣味の切手収集、JPS千葉支部、千葉郵趣会の活動行事が多く、3回に亘り、切手展を開催しました。4月のスタンプショー、オープン切手展にも出品、大変忙しい日々を過しました。元気で参加できることが何より幸いです。

(昭和43年卒 東京都 中村雅喜)

昨年同窓会案内から、もう一年が経ったのかと月日のたつのが早く感じられます。毎回の御案内ありがとうございます。お蔭様で元気です。現在リタイアし毎日好きな事をして過しております。長野の地から皆様の御健勝を願っております。

(昭和43年卒 長野県 古川紘一)

皆様お元気で活躍のことと存じます。皆様の中で特許など知的財産をお持ちで、そのアイデア

を社会に役立てたい、事業化したいと考えておられる方は、いらっしゃいますか。我々は、関東経済産業局の指導の下に「特許の事業化サポートシステム」を立ち上げ、特許所有者と実現化できる中小企業とをジョイントして開発から販売までのお手伝いをしています。

(昭和 45 年卒 東京都 保坂早苗)

放送局向けシステム設備のシステム検査（第三者検証）を業務としています。製品におけるソフトウェアの割合が大部分を占める現在、いかに不具合部分を出さない様な設計を技術部門に求めるか苦心しています。技術部門出身なので苦労はわかっているのですが・・・。

(昭和 59 年卒 神奈川県 伊東 朗)

世界は、テロリストもアメリカ軍も、イスラエル軍もパレスチナ過激派も、暴力の応酬に明け暮れ、たくさんの人々が苦しんでいます。人間は、何もしなくても、大自然の猛威に翻弄される宿命なのに、人が人に危害を加えるなんて、何と愚かなことか。台風や地震の被災地の方々には、お見舞い申し上げます。

母校の高校の初代校長の訓話の中に「世の悪風に染むことなかれ」という一言があります。普段忘れがちなこの言葉を大切にしたいですね。

(昭和 63 年卒 静岡県 伊藤克仁)

会社では、少人数でスケジュール・クリティカルな仕事をしており、多忙を極めています。家庭では 2 児の父として子供の相手をするのが貴重な時間です。

(昭和 63 年卒 神奈川県 細田浩希)

早いもので卒業してから 14 年たちました。普段、日常に忙殺されていても、改めて思えば、諸先輩、学校、学部、学科の存在の大きさを感じます。これからも、このようなつながりを大切に、それぞれ頑張っていければと思います。

(平成 2 年卒 神奈川県 宮崎真由美)

最近、結婚し新しい生活をスタートしました。

(平成 10 年卒 神奈川県 臼居雄治)

卒業して早 5 年が経過しました。地元の同窓会に積極的に参加させて頂き、先輩方より手厚い御指導を頂き、自分の人生にプラスにさせて頂いております。立派な経営者になれるよう頑張っております。中央大学OB一同様のご活躍を祈念いたします。

(平成 12 年卒 宮城県 高橋寛治)

## 講演会要旨

### 世界最速エレベータを支える技術

東芝エレベータ(株)顧問

水口 宏 昭

昨年12月16日に台北市 TAIPEI101 に世界最速エレベータを納入して、同日ギネスから世界最速の証を授かりました。このエレベータは2台で、TAIPEI101の89階展望室まで382mの行程を39秒で運行します。速度は横

浜ランドマークの毎分750mを上回る毎分1010mです。乗り心地に重点を置き、かご室気圧制御や制振装置、整風装置等最新技術を開発して実現しました。当日はその概要を説明させていただきます。(昭和42年卒)

---

#### 同窓会からのお願い ・ ・ 消息不明者の情報を求めています ・ ・

同窓会ホームページ( URL : <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/EEOB/qshosoku.htm/> ) に掲載されております会員の「消息不明者」について、消息をご存知でしたら事務局までご連絡頂きたいとお願い致します。

#### 《編集後記》

会誌42号をお届けします。昨年の会誌発行後、新潟中越地震や各地の大雨災害、また、JR福知山線での100名以上の死者が出た脱線転覆事故、7月に首都圏を襲った震度5強の地震、ロンドンの同時多発テロ等々、暗いニュースが続いています。これからの1年は、天災・人災の無い世の中であるよう祈っております。(H)

---

#### 中大電気同窓会会誌 第42号

発行所：中央大学工学部電気電子情報通信工学科同窓会

〒112-8551 東京都文京区春日1丁目13番27号

FAX：(03) 3817-1847

URL： <http://www.elect.chuo-u.ac.jp/EEOB/qindex.htm>

2005年10月1日発行

編集・発行人：天野 浩 志

# 同窓会総会・懇親会開催のお知らせ

平成17年度「同窓会総会」を下記の通り開催します。本年度の総会は、初の試みとして昭和42年卒の皆さんが「開催委員会」を設置し運営を担当することになりました。また、総会終了後には「懇親会」を開催いたしますので、多数の会員の皆様にご出席賜りたくご案内申し上げます。

## 【 記 】

### ★ 総会ならびに懇親会

日 時：平成16年11月5日（土） 12：00 ～ 15：00

会 場：上野 精養軒 梅の間

住 所：東京都台東区上野公園4番58号 電 話：(03) 3821-2181

受 付：午前11時30分 受付開始

会 費：7,000円

総 会：12：00 ～ 12：30

講演会：12：30 ～ 12：50

発表者：水口宏昭氏（昭和42年卒、東芝エレベータ株）

テーマ：世界最速エレベータを支える技術（本文の講演要旨を参照）

懇親会：13：00 ～ 15：00

### ★ 会場のご案内



### 会場へのアクセス

- ① JR上野駅公園口・・・徒歩5分
- ② 京成上野駅・・・徒歩5分
- ③ 山手線 上野駅

返信葉書は、10月22日必着で投函下さい